

◆◆◆ 6月4日から気象科学館で、緊急地震速報専用受信端末の展示

気象庁では、緊急地震速報の周知・普及のために各種の周知・広報活動を進めてきています。また、当センターが事務局を担当している緊急地震速報利用者協議会（会長：阿部勝征東京大学地震研究所名誉教授、会員数：148（平成21年5月現在））においても緊急地震速報の推奨報知音やロゴ・ピクトグラムの制定、広報ポスターの作成、関連講演会の開催等の緊急地震速報の周知・普及に向けた活動に努めています。

今般、気象庁の広報室では、緊急地震速報の周知・普及活動の一環として、気象科学館（気象庁1F）において、緊急地震速報専用受信端末を展示し、端末の動作のデモを行うこととなりました。この展示は、緊急地震速報利用者協議会会員で出展を希望した会員の協力のもとに行われます。展示では、来館者が館内の展示案内用のパソコンの画面上から選んだ過去の事例の緊急地震速報を端末に向けて送出し、その速報に対する端末の作動（情報の表示や報知音の鳴動等）を擬似的に体験することができます。

今回の展示には、11種類の受信端末（11社）の出展の協力が寄せられました。展示場所の都合上これらを同時に展示することが困難なことから、4週間毎に毎回4台程度の端末が展示されます。初回の展示は、6月4日（木）から7月1日（水）にかけて4台の端末が、以後、7月2日（木）、7月30日（木）にそれぞれ別の4つの端末と入れ替えて展示が行われます。また、8月27日（木）以後も4週間毎に端末を入れ替えて繰返し展示が続けられる予定となっています。

この機会に、気象科学館を訪れ、受信端末の実際の機能・作動状況を直接体験していただきたくご案内します。気象科学館では、このほかにも気象業務の紹介や防災知識の普及・啓発のための各種展示等が常時行われています。気象科学館（休館日：日曜・祝祭日・年始年末）は、午前

10時から午後4時まで開館されています。入館は無料で、事前予約等の必要はありません（最寄りの地下鉄駅は、東西線竹橋駅等）。